

# 子ども自身が考えを広げたり深めたりしていく国語授業

～根拠と理由を大切に互いの考えを高め合う子どもを目指して～

新発田市立住吉小学校 山田 雄太(平成 24 年度)

## 【主張】

「読むこと」において、子ども自身に考えを見直させたい。そのためには、他者との対話を通して互いの考えに触れることが有効である。そして、その際、「根拠・理由・主張」に整理してそれらを可視化することで、対話が促進され、その結果、子ども自身が考えを広げたり深めたりすることができると思う。

## 1 主題設定の理由

「読むこと」において、子どもに自らの考えの根拠を問うと叙述の指摘に留まることが多く、根拠となる叙述が明確なため、更に追究しようとする姿には至らなかった。一方、仲間と対話すると、繰り返し根拠を確認したり言葉一つ一つにこだわって読んだりしようとする姿もこれまでの実践の中で見られた。この二つの姿の違いの要因の一つとして、仲間の考えに触れたときの自分の考えとの違いやズレの発見が作用しているのではないかと考えた。

そこで、鶴田の「根拠・理由・主張の3点セット」に着目した。鶴田(2023)は、「論理的思考力・表現力の育成にとって『理由づけ』は最も重要であるが、最も困難な課題でもある」とし、その著書の中で「湯汲(2010)も『子どもたちは(中略)理由の必要性を理解していない、理由表現が十分でない、自己流の理由にこだわる』と述べている。子どもたちは理由に着目することに弱さが見られる例が見受けられた。そこで、「根拠・理由・主張の3点セット」を用いて対話することで、自他の考えの違いやズレに気づき、考えを見直すことができると期待した。

以上から、本実践では、「根拠・理由・主張の3点セット」を用いた他者との対話を通して、子ども自身が考えを広げたり、深めたりしていくことを目指した。

## 2 目指す子どもの姿

「読むこと」において、「根拠・理由・主張」に着目しながら他者と対話することで、子ども自身が考えを広げたり深めたりしていくこと姿。

※本実践では、考えを「広げる」「深める」姿を以下のように定義する。

「考えを広げる」：自分の考えになかったものを受け入れて自らの考えに生かす姿。

「考えを深める」：自分の考えを基に多様な観点から自分の考えの妥当性や信頼性を吟味する姿。

## 3 実践内容

### (1) 「根拠・理由・主張の3点セット」を用いて自他の考えを可視化して対話させる

思考ツールを用いて、主張に対する根拠と理由を可視化し、それらを比較しながら対話する。

### (2) 対話する場を「グループ」での整理→「全体」での討論と、段階的に設定する

同じ主張同士で考えを整理した上で、全体で互いの考えを伝え合う場を設ける。

#### 4 実践の実際

##### 【実践①】登場人物の変化を中心に考えよう

～「根拠・理由・主張」に着目して仲間と考えを伝え合おう～

『プラタナスの木』（光村図書・4年）（2023年10月実施）

##### (1) 「根拠・理由・主張の3点セット」を用いて自分の考えを表現することについて

本実践では、以下の場面で「根拠・理由・主張の3点セット」を用いた。

- 1 おじいさんと出会い、木の話聞いたとき、マーちゃんはどう思ったのか？
- 2 お父さんのふるさとで台風にあったことから、マーちゃんはどんなことを考えたのか？
- 3 プラタナスの木が切り株になったことから、マーちゃんは木をどう思ったのか？
- 4 マーちゃんの気持ちはどのように変化していったのか？

子どもたちにとって、初めて出会うツールであったため、最初は全体で使い方を確認しながら進めた。1の問いについては、「やさしい」「不思議」といったマーちゃんの気持ちをクラゲチャートの頭部として、そう考えた根拠となる叙述をチャートの足となる部分に、そして、その間に理由を書かせた。最初は、こちらから使い方を説明していたが、繰り返し使うことで、子ども自身がクラゲチャートを用いて考えを伝え合うことができるようになった。特に3の問いでは、プラタナスの木が切り株となってしまったことを知ったマーちゃんの気持ちについて、活発に考えを伝え合う姿が見られた。

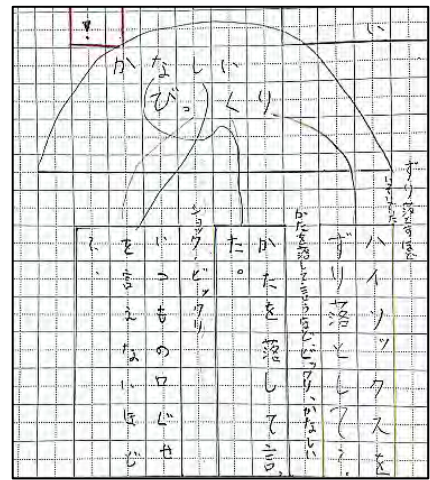


図1 3の問いでのクラゲチャート

- A: マーちゃんは、残念な気持ちだと思う。「根だけ残った…」というのが根拠で、理由は木だったのに根だけになってしまったから。
- B: ぼくは「かたを落として…」と書いてあるから、それも残念な気持ちになると思う。
- A: 「かたを落として」って、がっかりしているってことだもんね。Bさんの根拠と理由も納得だよ。

このように、根拠と理由のつながりに着目しながら、自分の考えを伝え合う姿が見られた。この場面での気持ちについては、全体での確認の際、「残念」だけでなく、「寂しい」「びっくり」「悲しい」といった気持ちも挙げられた。それぞれの根拠と理由を確認し合い、この場面でのマーちゃんは、プラタナスの木が切り株になってしまったことに対して、「驚き」や「悲しみ」などといった気持ちの一つではなく、いくつかの気持ちがあざっていたのではないかという結論に至った。(図1)

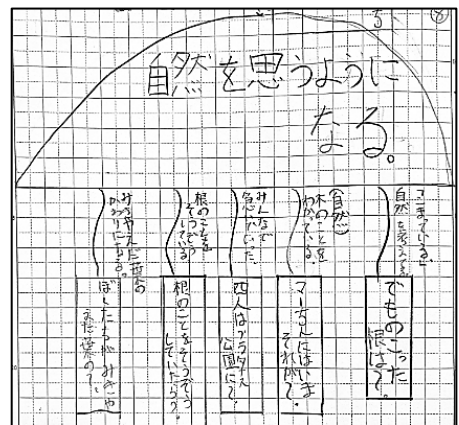


図2 4の問いでのクラゲチャート

また、4の問いでは場面と場面をつなぎながら、マーちゃんの気持ちはどのように変化したのか、1つのクラゲチャートにまとめた。(図2)

それまでは、1つ1つの場面ごとに考えていたマーちゃんの気持ちや根拠を物語全体として捉え直し、場面と場面を結び付けながら、自分の考えを形成する姿が見られた。学級の30人中28人が図2のように3点セットを用いてまとめることができた。

一方で、全体で対話する場面では、それぞれの主張の理由が出されたものの、それらを十分に検討することなく、すぐに納得してしまい、本当にそれが理由なのかという思考が働いていなかった。そこで、次の実践では同じ主張のグループで考えを整理し合う対話を設けることで、より多くの子どもが仲間の理由に着目し、考えを見つめ直すことを目指した。

## 【実践②】物語の大きな変化をもとに考えよう

～仲間との「対話」をもとに物語の全体像をより豊かに想像しよう～

『たずねびと』（光村図書・5年）（2024年9月実施）

### (1) 「根拠・理由・主張の3点セット」を用いて自分の考えを表現することについて

本実践では、中心人物の「綾」の気持ちが物語全体でどのように変化したのかについて、全体像をより豊かに想像することを目指した。初発の感想から、綾の戦争に対する気持ちやポスターの名前への気持ちが変化することは全体的に捉えられていた。しかし、何によって変えられたのかについては、ズレが見られた。そこで、「綾の気持ちは何によって最も変えられたのか」という問いを設定し、そのことを考えさせるために、思考ツールのフィッシュボーンを活用した。魚の頭部に変化前の綾の気持ち、尾部に変化後の綾の気持ちを書かせ、その間に根拠と理由を書かせた。なお、綾の気持ちを変えたものとしては、「資料館（6人）」「広島（7人）」「おばあさん（17人）」という3つの主張に分かれた。

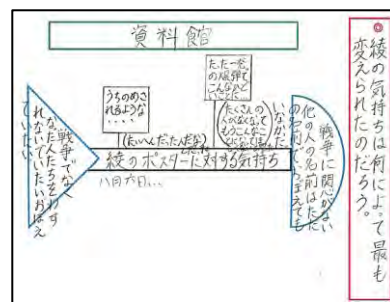


図2 抽出児が作成したフィッシュボーン

### (2) 対話する場を「グループ」での整理→「全体」での討論と、段階的に設定することについて

実践①の課題を解決するために、本実践では同じ主張の仲間同士でグループを編成し、そのグループ毎に1つのフィッシュボーンを作成する活動を行った。この活動では、同じ根拠でもそれぞれ異なる理由付けをしていたり、自分が見付けていなかった叙述に対して理由を聞くことで納得したりする姿が見られた。



図3 抽出児のグループのフィッシュボーン

#### 【「資料館」のグループの様子】

(抽：抽出児。根拠はあるものの、理由に自信がない。)  
 抽：待って、私、これに納得した。「うちのめされるような……」は、「大変だったんだなと思ったから」にしていたけど、確かに「亡くなった人のことを知って悲しい気持ちになったから」も理由になると思う。  
 C：(抽出児)さんの理由も伝わるよ。私の理由と2つとも書いておくと(説得力が)強くなるね！

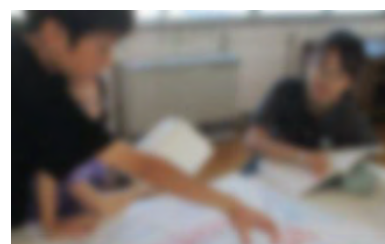


写真 グループ活動の様子

こうしたグループでの対話を通じた活動後、最後に全体で互いの考えを伝え合う活動を行った。同じ主張同士で整理したことで、より一層、仲間の理由に着目する姿が見られた。

D：広島に行ったからこそ、見たり話したりできた。だから、綾さんは変わったんだよ。  
抽：「広島に行ったからこそ」は分かるけど、資料館に行ったことで戦争のことが分かってアヤちゃんのことをもっと思うようになったんだと思う。

教：資料館で、戦争のことって？

抽：戦争の怖さとか恐ろしさとか。

E：怖さとか恐ろしさも分かる。でも、おばあさんに会って直接話を聞いたから、自分もアヤちゃんのことを忘れてたくないって思ったんじゃないかな。

全体での対話の後では、改めて自分の考えを見つめさせるために、「変えた度(%)」として、円グラフでそれぞれの度合いを全員に表現させた。自分の主張のみ(100%)になってもよいと伝えたが、全ての子どもが「資料館」「広島」「おばあさん」の3つで表していた。抽出児については「友だちの理由に納得したり深められたりしてよかった。」と振り返っていた。抽出児は「資料館」と主張していたが、他の立場の考えに触れることで、納得したことを受け入れ、自分の考えに生かしたことが伺える。(学級全体については別資料参照)

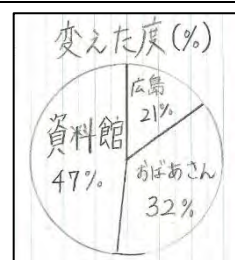


図4 抽出児の「変えた度」

## 5 成果と課題

### (1) 成果

- 理由に注目することの大切さを実感する姿が振り返りの記述から見られた。(別紙資料参照)  
また、理由を意識することで、発表に留まることなく、追究しようとする姿が見られた。
- 実践②では、同じ主張同士で考えを整理する対話場面で考えのズレが明らかになったことで、自分の根拠や理由に自信をもつ姿が見られた。また、吟味による仲間意識が芽生え、その後の全体対話の場面でより多くの子どもが自他の考えをわがごととして考えることができた。互いの考えを尊重しながら、自分の考えを見直し、考え直す姿が多く見られた。

### (2) 課題

- 子どもが考えを広げたり深めたりした際に、仲間のどんな考えが影響したのか、見取り、働きかけることが大切である。今回は、支援が不十分であると反省している。見取りながら、問い返したり振り返らせたりすることで学びをより確かに自覚させる必要がある。
- 子どもの理由の捉えに弱さが見られた。根拠と理由が繰り返しになっていたことがあった。小学校段階では、一気に理想的な理由を求めるのではなく、少しずつ理由を考えることに慣れたり、理由を述べることの大切さを実感したりする学習体験を積み重ねること自体が大切である。今後も継続的に3点セットで考えさせ、子ども自身が考える力を育てていきたい。

## 6 引用・参考文献

- 鶴田清司(2023)『論理的思考力・表現力を育てる「根拠・理由・主張」の3点セットを活用した国語授業づくり』 明治図書
- 学習指導要領国語科解説編 文部科学省